

## 心理臨床家養成教育における gatekeeping : gate-opening と改善や成長への働きかけ

五十嵐 透子

上越教育大学大学院学校教育研究科臨床・健康教育学系

### 要 旨

臨床心理士と公認心理師養成教育のなかで、養成にたずさわる教員やスーパーバイザーは gatekeeping という役割を担うことが海外では指摘されている。しかし、gatekeeping や gatekeeper という役割は自殺対策やさまざまな対人援助職の養成だけでなく多様な領域で用いられている。11 の領域それぞれでの gatekeeping の役割や用語の用いられ方および研究内容を概観し、国内における心理臨床家養成教育での gatekeeping を検討した。コンピテンシー・モデルに基づくカリキュラムとベンチマークの提案が行われる国内の心理臨床家養成教育における gate-opening と研修生のシステム内での力動の理解と対応、そしてメタ・スーパービジョンの必要性を考察した。

**キーワード:** ゲートキーピング, 改善や成長への働きかけ, 心理臨床家養成教育, 指導者, PPC

### はじめに

心理臨床家の養成教育に携わる大学教員は、臨床心理士とともに国家資格である公認心理師という専門職の人材養成という社会的責任を担っている(金子, 2001)。養成プログラムにはさまざまな教育面や臨床面での課題があるなかで、大学院での心理臨床家養成の専門家教育における重要な業務の1つに“gatekeeping (ゲートキーピング)”が挙げられる(田所, 2018)。gatekeeping は特定の資源や能力を得るか得ないかをコントロールする活動で、その判断をする人が“gatekeeper (ゲートキーパー)”として[門番]と訳される。あるポイントから別のポイントへのアクセスをコントロールしたり、仲介役として機能する人やポリシーで、サービスへのアクセスを拒否したり、遅らせたりすることもある(Barone, 2023)。

心理臨床家以外にも、さまざまな対人援助職養成には、対象となる人を傷つける可能性のあ

る人が対人援助職に就かないような gatekeeping の必要性和実践が強調されやすいが(i.e., Brown-Rice & Furr, 2016 ; Gaubatz & Vera, 2006), 対人援助職自身が十分に機能しながら社会貢献ができるような職業選択へのサポートであり、その人自身を守るためにも必要なことといえるだろう。しかし、gatekeeping は多くの領域で、それぞれの意味合いで用いられていることから、心理臨床家の養成段階における活動や役割を考えるにあたり、gatekeeping という概念が用いられるようになった背景とともに、それぞれの用いられ方から、特定のことを護るといった意味合だけではない用いられ方をしていることを理解し、心理臨床家養成における gatekeeping を考えてみたい。

### さまざまな領域での gatekeeping

#### 1. メディア領域

gatekeeping や gatekeeper という用語を社会科学に導入したのは、1940年代に場の理論を提唱した Kurt Lewin で、家族の食習慣の変化に取り

組む中で、食料品が店で購入され、食卓に出されるまでの経路の中で特定の箇所が [gate] として機能していた点を明らかにしたこととされている (渡辺, 1983)。gate の持つさまざまな機能を明確化し理解を深めるなかで、対象となる人やモノなどが gate のなかに入るか否かや、経路のなかで 1 区域から他区域に動くことを gatekeeper が行っており、その判断に影響するさまざまな要因が研究対象となっている。

その後、マスメディア・コミュニケーション領域で gatekeeping の概念を David Manning White (1950) が適用している (佐々木, 2013)。新聞やテレビ、ラジオで配信される記事やニュースに関し、編集者や編集委員会が、どの情報やニュースを記事とするのか、さらに取材を続けるのか否かなどの取捨選択、内容や記事の加工や削除などのさまざまな行為を含め、情報をフィルター化して公表を規制する要となる活動、そしてプロセスを指している (Donohue et al., 1972)。マスメディア・コミュニケーションで gatekeeping に影響をおよぼしているものを Shoemaker & Vos (2009) は、個人システム、コミュニケーション・ルティーン・レベル、組織レベル、制度レベル、社会システム・レベルの 5 つに区分している。個人レベルでは、個人の意見や選好、教育歴や所属するコミュニティ内での立場 (i.e., マイノリティ) などの影響を受け、どのような情報を発信するかを無意識レベルあるいは意識レベルで意図的に選択したり変えている。情報発信の意味においては、メディアだけでなく学術論文でも、どの文献をどの程度引用するか、本文の研究内容とどのように統合するのかなどは、専門的知識に基づく主観的な判断で行われており、情報を公に発信するすべての人が gatekeeper といえる。これは、ネット社会のなかで SNS を利用したメッセージの発信も、メディア関係者だけでなく、SNS 利用者すべてが gatekeeping の機能を有しているといえるだろう。

2 つ目のメディアにおけるコミュニケーション

ン・ルティーン・レベルは、さまざまなコミュニケーションに共通するパターン化されたルールで、繰り返して用いられている専門的な慣行や形式とされている。選択した情報のもつ価値の大きさであり、発信することによる影響と当該分野の基準や判断を参照しながら、自らの判断を下すことである (佐々木, 2013)。学術論文であれば、論文の種類や執筆規定などに該当するだろう。3 つ目の組織レベルは、所属する組織の方針や上司との関係、メディアのもつ特徴などが含まれる。学会や専門家集団の年次大会のテーマや学会誌の特集、研究テーマなどが該当すると思われる。4 つ目と 5 つ目は、政治や経済状況、対象となるコミュニティの規模やコミュニケーション手段 (e.g., 紙媒体やインターネット) が影響をおよぼす。社会制度システムには、多くの活動が含まれるが、メッセージの選択と形成に影響を与える社会文化的要因には、その時々々の社会情勢や課題、たとえば COVID-19 禍と 5 類になった現在、そしてインフルエンザをはじめとした複数の感染症が拡散している状況で、発信されるメッセージは影響を受けるとともに影響をおよぼしている。

## 2. 自殺対策関連

現在、国内で gatekeeper という用語は、自殺対策のイメージを抱かれやすいと思われる。自殺の危険を示すサインに気づき、悩んでいる人に声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守るといった適切な対応を図ることができる人のことで、[命の門番] とも位置づけられている (内閣府大臣官房政府広報室, 2023)。自殺予防においては、アメリカで自殺予防国家戦略 (National Strategy for Suicide Prevention) に沿って、1958 年に最初の自殺予防センターがロスアンゼルスに開設され (神澤, 2011)、1960 年代から医師や教員、薬剤師や聖職者、あるいは警察官などの専門職を対象に gatekeeper の役割を担うための研修会が始まっている (Lederer, 1970)。その後も自殺予防対応は行われており、年間 80 万人を超える自殺者数に対し WHO は「世界の

優先課題]として、2014年の予防対策レポートでも gatekeeper 養成を含んでいる (WHO, 2014)。

国内では 1998 年に自殺者数が 3 万人を超え、2003 年には最多の 34,427 人となり、2006 年 10 月に自殺対策基本法の施行に伴い gatekeeper 研修事業がスタートし拡大している。自殺は、個人レベルではなく [追い込まれた末の死] であり、社会的課題として社会全体で取り組む重要性が 2007 年に策定された自殺総合対策大綱で明記され、医学的意味合いの強い [自殺予防] から、総合的取り組みとして [自殺対策] に変更されている。そのなかに、自殺の危険性の高い人の早期発見ならびに早期対応を行うために、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる gatekeeper の養成が含まれている。自殺総合対策大綱は 5 年ごとの見直しがある。その後 3 回行われ、最新の 2022 年版でも [誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して] との副題で、gatekeeper に関しては養成から [普及] に移行している (厚生労働省, 2022)。

しかし、Yonemoto et al (2019) の自殺対策 gatekeeper 研修に関するシステムテック・レビューにおいて、研修活動報告が多く、研修内容の効果検証が十分でないことが明らかにされた。その後、小高他 (2022) はスキルや知識習得評価尺度を開発し、多様な内容と実施形態の gatekeeper 研修会の効果検証を試みている。その内容には、最低限の知識やスキル習得状態の確認として、尺度の信頼性と妥当性が示され、自ら命を絶ち、gate を越えてしまうことがないように、研修会受講者が [門番] としての役割を果たすための指標が示され、より効果的な実践への一助となっている。

### 3. マタニティ・ゲートキーピング (maternal gatekeeping)

海外の共働きカップルにおける父親の育児関与と促進研究において、父親の子どもへのかかわりを母親が [門番] のように抑制する意味合いで maternal gatekeeping という表現が用いられている (Allen & Hawkins, 1999)。母親が父親を子

育てに関与させなかったり、父親のかかわりを限定したものにしていたり、離婚後であれば共同親権を有している父親との接触頻度の制限などが含まれる。これらはネガティブな側面を中心としており、父親は gate の外に居て子どもにかかわったり、会ったりする頻度が少ない状態と解釈されやすいが、より積極的な父子交流を働きかけることを意図した行動である場合もみられる (Sano, et al., 2008)。そのため、母親の gatekeeping には、母親が父親の子育てへの関与を否定し批判する抑制面で gate-closing という状態と、母親が父親を励まし支える促進面で gate-opening という状態の 2 側面からとらえる必要があることを、加藤 (2007) は指摘している。

加藤他 (2012) は、母親の gatekeeping 研究の展望論文のなかで、gate-opening を夫婦ペアレンティングとして、gatekeeping という用語に対する複数の指摘をしている。1 点目は、子育てにかかわる権限を制限する意味合いをもつ gatekeeping に [促進] という表現が、夫婦での子育てをより豊かにする意味合いと矛盾する点である。gate を開けることを促進するのか、あるいは閉じることを促進するのかの混在した状態の問題提起である。2 点目は、母親の gatekeeping に関する考えや行動は意識レベルで行われているだけでなく、無意識レベルの影響もあるとともに変容し続ける点である。そのなかには、女性としての社会的地位の低さの影響から、母親が家庭内での存在意義や地位などを感じるために、無意識レベルで性別役割行動の [母親] として機能することを求めている可能性が含まれていることを指摘している。母親としての自身のアイデンティティや権力 (power) あるいは役割を失うことへの恐怖感や、子育てに対する高い基準設定に基づくパートナーの子育てに対する評価への影響である。これらが、母親の個人的な特性としての位置づけになるか状況依存的要因としての位置づけになるのかの検討が必要とされている。3 点目に、母親と父親による子育てという営みには gatekeeping という

用語に替わって、母親と父親による子育て行動の〔調整〕(夫婦ペアレンティング調整)という表現を提案している。特に、母子一体感の母性社会の国内では母親の gate は閉じられやすい可能性があるが、加藤(2007)は母親が gate を開けてパートナーである父親や他の人のサポートを得ることは、母親としても1人の人としての成長に伴う変容にもつながることを指摘している。

国内でも、母親の gatekeeping 尺度開発が進み、金子・濱口(2020)は Puhlman & Pasley(2017)が作成した尺度の日本語版を開発し、原版と同じ〔抑制〕〔促進〕〔コントロール〕の3側面からの測定の可能性を検証している。しかし、各因子に含まれる項目が原版と異なる点から、コミュニケーションの文化差や夫婦間でのコ・ペアレンティングと母親主導というとらえ方の差異などの可能性が示唆されている。さらに、拡大家族は少なくなっているが、家族システム内における子育ては母親と父親の2人だけでなく、他の家族メンバーや地域での子育てサポートも含めた形態もみられるため、母親の gatekeeping の状態はさらに複雑になっている可能性もあるかもしれない。加えて、海外の縦断的データであるが、Fischer et al(2023)は父親が母親の gatekeeping の gate-closing の状態を強く感じると、恋愛感情や親密性と負の関連だけでなく、家族全般に対する思いにも影響すること、排除感の高まりに伴う自律性や有能感などへの影響を明らかにし、システム論からの検討と対応の重要性を指摘している。

#### 4. 学校教育

アメリカの教育学者の Stephen J. Thornton(2004 渡部他訳 2012)は、教員のカリキュラムや授業における主体的な調整を〔門番〕のメタファーを用いて、gatekeeping の仕事として論考している。教室内に何をもちこみ、児童生徒が何を学ぶのかを教員は調節し省察しながら進めている状態を示している。gatekeeping としての意思決定には、教員の主観性、児童生徒や学

校を取り巻く社会的な文脈、教科の特質といった3つのフレームが複雑に絡み合いながら行われる(金・河原,2018)とともに、教育観や授業観、子ども観などを見直しながらカリキュラムと授業の調節を行っているという。特に社会科教育は、フレームの中でも教科の特質という点で、地理学、歴史学、政治学(公民)だけでなく、経済学、社会学、文化人類学や心理学の社会諸科学と、学問領域として分類しにくい時事問題なども含むカリキュラムであるため、何を教室に持ち込むのかの判断が特に問われやすい教科といえる。このような社会科教育の教育実践以外にも、ESD(Education for Sustainable Development:持続可能な開発のための教育)(中本,2014)や生活科(金・河原,2018)、体育科(岡田,2021)など、他教科でも gatekeeping 研究が行われている。加えて、教育の専門職である教員に gatekeeping の仕事が不可欠なことは、教員養成である大学教育でも gatekeeping に関する教育が必要であり、Thornton(2004 渡部他訳 2012)は教育目標や教科内容、教材開発や教育方法などを gatekeeping の視点から教員養成教育に含める必要性を指摘している。

学校教育の現場において、教科教育以外でも教員の gatekeeping の役割に保田(2014)が着目し、フィールド・ワーク結果を報告している。学校システムでのスクール・カウンセラー(以下、SCと略す)やスクール・ソーシャル・ワーカー(以下、SSWと略す)との学校内での協働に関し、専門職システム論に基づいた検討である。教員は教育実践だけでなく、学級経営や生活面でのサポート、部活動指導や進路指導をはじめとする数多くの職務を担いながら、対応が困難な児童生徒や心理社会的側面での専門的対応が必要な場合には、SCやSSWにつないでいる。保田はこのような状態を gatekeeping のプロセスとして、2段階に分かれること指摘している:何が課題となるのかの判断をする段階と、課題となったことに対し誰にどのようにして対応してもらうのかを判断し振り分け、そして他専門職

にコンタクトをとる段階。これらのプロセスにおいて、教員は課題の判断というアセスメントから他専門職を排除したり、逆に専門性として教科教育を前面に押し出し特化するような行動はとらず、必要時に高い専門性をもつ他専門職に振り分け委譲し、日常のかかわりは積極的に行うことをはじめとして、他の部分は対応するという gatekeeping を行っていることを示している。

## 5. 対人関係におけるコミュニケーション

グループ内におけるメンバーの行動は、課題達成とグループの形成および維持機能の2つがあり、後者に含まれる調和や奨励、妥協などの7つの行動のなかに gatekeeping が含まれることを Schein (1999 稲葉・尾川訳 2002) が論じている。コミュニケーション量を調整するために“グループ内で活動しすぎるグループ・メンバーの動きを制御するとともに、非常に消極的なメンバーの活動を増大させること” (p.249) で、課題解決策を有するグループ・メンバーの活動機会を保証することとしている。津村 (2012) は、これらをグループのファシリテーターの役割として、メンバーのグループ活動へのコミットメントを高める上でも、gatekeeping の役割の重要性を指摘している。これらの gatekeeping の視点を、平野・鈴木 (2021) は大学生の悩みがあっても相談しない現象に対し、こころを開いたり閉じたりする状態を個人の gatekeeping 能力と位置づけ、尺度開発を行っている。対人関係における社会的調整機能としての安全に対する gatekeeper の機能 (Rook & Pietromonaco, 1987) とも重なり、個人が健康的な生活を送るためには重要なスキルとしている。

また、経営学におけるイノベーションや研究開発におけるコミュニケーション研究においても、組織内コミュニケーションに gatekeeper の用語が用いられている。高橋他 (2006) によると、1970年代に経営学者の Thomas J. Allen (1977) が、製品や技術開発における、組織内外のコミュニケーションに関する詳細な分析から、組織

内の多くのメンバーとのコミュニケーション量が多いだけでなく、組織外の情報とのコンタクト頻度も明確な差異がみられる人を gatekeeper と位置づけている。gatekeeper は所属する組織や企業の特有の文化や考え方などの境界を越えて、その内側と外側を情報面からつなぎ合わせる人と定義され、高度な専門性を有している。そして、メンバーにわかりやすく変換して説明することも行え、イノベーションや研究開発の促進に関与し、大きく貢献していることが示されている。

加えて、大学という組織においても、知識を基本として社会の主要な推進力である研究、教育、イノベーションの3つの知識三角形 (knowledge triangle) の促進を担う役割をもつ gatekeeper の存在も論じられている (Meissner & Shmatka, 2017)。大学に対し情報の選択と提供を行うとともに、変化に対する戦略的実践者でもある。専門家としての役割だけでなく、組織内の複数のサブ・システムで活動したりつないだりと多様な役割をもち、多くの大学教員が担っているさまざまな役割と職務の1つに gatekeeping の役割を加える提案である。また、COVID-19 で打撃を受けた地域経済の復興において、板谷 (2022) は、“地域の産業的ネットワークにおける中小企業の新規事業創出を中心とした創発的な活動を促進する技術にも精通した支援者” (p. 118) と定義した technology gatekeeper を提案している。

## 6. 医療における gatekeeping

医療保険システムの異なる海外では、医療保険に関連して gatekeeper の用語が用いられる場合がある (Barone, 2023)。イギリスでは、利用者は加入している保険プログラムから指定されているあるいは提供されるリストから gatekeeper になる主治医 (かかりつけ医) を選択している。緊急時を除き、かかりつけ医が gatekeeper となり、必要な検査や治療の指示を出し、専門医が必要になった場合には紹介を行う役割を担っている (井上, 2023)。加えて、介護保険の長期的

治療計画を担当することもあり、資源やサービス、情報などを管理する役割も有している。

このシステムは、国内では特定機能病院と地域医療支援病院（一般病床数 200 床以上）に加え、2023 年からは外来医療の機能分化と連携のために紹介受診重点医療機関制度が含まれた（厚生労働省、2023）。かかりつけ医からの紹介状とともに受診予約を取った方が、連携がスムーズになりやすい点で共通しており、かかりつけ医が *gatekeeper* の役割を担っている。高度医療が必要な人たちへの医療の確保と地域医療を守るためであるが、井上（2023）は、かかりつけ医は、要支援者の状態や価値観などを尊重し、その人にとって適切な医療を円滑に受けられるようにサポートする *gate-opener* の役割も有していることを指摘している。閉鎖システムではなく、開放システムであること、しかし広く開き過ぎていては支障が生じる状態になることを防いでいる。

医療機関へのアクセスにおいて、*gatekeeping* が制度的差別の 1 つという指摘もある（Verbeek et al., 2022）。性別違和という精神医学的診断そのものが状態を病理化（Ashley, 2019）しているだけでなく、希望しているあるいは求められている医療を受ける〔適性〕の判断を受けるという *gatekeeping* プロセスを経ないと、ホルモン剤やさまざまな手術を受けられないという状態である。その上、これらのプロセスのなかで、理解なく思いやりのない対応を受けやすい点である。世界トランスジェンダー・専門家協会（WPATH, 2012）はケア基準の第 7 版を出して、医療関係者がジェンダーに配慮したケア（*gender-affirming care*）を提供するガイドラインを示しており、メンタルヘルスを考慮した患者中心の対応を Verbeek et al（2022）は奨励している。国内でも、性別違和の人たちの性別を戸籍上変更する特例法に関して、性別違和の診断を受けていることに加え、生殖腺がないことあるいは生殖腺の機能を永続的に欠く状態であるとともに、自認する性別に合わせた身体の性器を近似する

外観を備えていることが条件になっていることも *gatekeeping* といえるだろう。2023 年 9 月に違憲であることから性別変更を手術なしで認められた初めての事例が静岡県で出され、10 月にも違憲判決が最高裁で出された。今後法律の見直しが進められ、*gatekeeping* の役割も今後変化が生じることが考えられるが、身体面でも心理面でも、そして社会面でも苦悩と健康を悪化させることにならないような対応が緊急の課題である。

また、国内では医療につなぐ役割としての *gatekeeper* は医療機関だけでなく、教育や福祉、行政分野などで相談を受けた人たちもその役割をもつといえる。学校で、養護教諭が医療につなぐか否かの判断をしたり、SC が精神科の専門治療につなぐか否かの判断とリファーを行ったりすることもあるだろう。これらは、支援者にとってのトリアージという緊急度や重症度に応じた判断も含まれる。

さらに、同一医療機関内での *gatekeeping* の役割として、Mizrachi et al（2005）は代替医療と生物医学的治療を専門とする医師間の医療チームの協働活動を取り上げ、*gatekeeper* の役割と協働における課題を報告している。大量ビタミン療法やロルフイング（*rolfing*）を含んだ構造的身体統合法（*structural integration*）、アロマセラピーや指圧、リラクゼーションや瞑想法などの代替医療を、生物医学的治療の薬物療法や外科的治療環境に取り入れる状況での *gatekeeping* 活動である。代替医療を紹介し取り入れ協働する動きとともに、縄張り争いのように代替医療が入り込まないように排除と疎外の動きもみられるなかで、2 つの医療システムが直面化を行わずに、互いに脅かされることなく併用されている状態がみられるという。国内では、アロマセラピストや心理職に加え、鍼灸師などを含めた包括的医療における多職種協働にも *gatekeeping* の役割を必要とするのか、もし必要とする場合はどのような動きをするのかなど、今後の検討事項といえるだろう。

## 7. 災害時の対応

災害時に行われるデブリーフィングを3人で行う場合には、リード・デブリーフィアとピア・デブリーフィアが進行し、3人目のサポーターがグループへの出入りの制限を行う役割を担うことから gatekeeper の位置づけをされている(松井, 2006)。また、災害後のメンタルヘルスにおいて、当該地域の人たちの状態を理解しており、その人たちの悩みや困難さなどに対し関心があり、その人たちに手助けをしたり、自ら対応できない場合は、専門家へ橋渡しをする人を community gatekeeper として、行政の福祉担当者や保健師、教員などが役割を担っていることを藤森・藤森(1995)が定義づけている。local gatekeeper(林, 1996)とも呼ばれ、被災者で、物資や支援対象となる地域の選定なども行うことで災害後に現地での有効な活動を行うことが特徴の1つとされている。加えて、community gatekeeper には仮設住宅の住宅内と外の情報の橋渡しを行っていることも明らかにされている(田中, 1998)。

## 8. その他の領域

その他として、4つの領域の gatekeeping に触れておく。1つ目は、金融経済学領域でヘッジファンドなどのオルタナティブ投資のためのさまざまな投資情報を取捨選択して、吟味し、評価そして判断をしてから、投資家に情報提供やアドバイスをする人を gatekeeper としている(Antelope Career Consulting, 2023)。企業の財務状況や関連情報を詳細に調べる専門家や専門機関も含まれている。

2つ目は、イギリスの住宅法に gatekeeping の用語が用いられていることである。法的に申請の受理や提供義務のある自治体が、ホームレスの人たちを拒否する状態を指している(Alden, 2015)。ホームレスやホームレスの状態に近い人たちへの宿泊施設の提供を拒否する状態で、自治体に受け入れるだけの住宅がなかったりコストの高さが影響しているという。

3つ目として、研究法の1つで特定の集団や

組織、コミュニティの人たちを理解するために用いられるエスノグラフィーで、研究者のエスノグラファーと対象となる人々をつなぐ人々も gatekeeper と位置づけられている(法橋他, 2022)。参加観察を中心としたフィールド・ワークにおいて、対象となる人々からの許可を得て責任を持ってくれる役割を担う人の存在で、データ収集がしやすくなるだけでなく、観察結果に対する分析の妥当性においても重要な役割を担っている場合もある(佐藤, 2002)。研究者にとって適確な gatekeeper を見つける必要性の高さといえる。

最後に音楽産業における gatekeeper を永山(2016)が取り上げていることを含めておく。gatekeeper を市場で受け入れられる作品やサービスを選んで送り出す役割を担う個人やグループ、あるいは組織(佐藤他, 2011)で、音楽や映画、アートや漫画などのクリエイティブなものなかで、市場に流通するか否かを判断し、事業成功に関する不確実性を低減する目利きの役割を担う存在である(永山, 2016)。プロデューサーや芸能プロダクション、編集者、評論家や画廊など(佐藤他, 2011)、各分野でヒットメーカーと呼ばれる人々たちである。その役割にはクリエイターの発掘や育成の機能も有していることを永山は指摘している。これには、市場のニーズや動向の把握、対象となるターゲットの特定化なども、多様な可能性を多角的な側面から判断する能力や経験、ネットワークや情報把握などが求められ、5の経営学のイノベーションとの共通性も高いように思われる。

## 9. 共通点

11領域での gatekeeping と gatekeeper をみてきたが、これらはほんの一握りでしかなく、さまざまな領域で使用されている用語であり役割であることが明らかになった。Table 1に示したが、[gate]の対象はさまざまで、[gate]の中に入らないようにするためか、[gate]の中に入るためであるのか、[gate]を高く位置づけて

Table 1 さまざまな領域の gatekeeping

領域	gatekeeper	対象	gate	gate-opening ① gate-closing	備考	
1	マスメディア	メディア関係者、編集者、広報担当者	ニュース、記事、情報、書籍など	公にするか否か	① & ②	コミュニケーション・チャンネルを通じて、メッセージの流れをコントロールする
2	自殺対策	SNS での発言者 対人援助専門家 自殺予防研修会の受講者	自殺の可能性のある人	自殺	② 入り口を閉じる	自殺に至らないように止める、減る
3	子育て	子育て中の母親	父親	子育てへの関与	① & ② (調整)	母親が父親の子育てへの関与を制限したり促進したりする
4	学校教育	教員	・ カリキュラムや教科教育内容 ・ 児童生徒の課題の判断と必要に応じた他専門職	授業内容 教職員以外の専門家の関与	① & ② (調整)	カリキュラムや授業における主体的調整 多専門職協働
5	対人関係: グループ	グループ・メンバー ファシリテーター	・ 児童生徒の課題の判断と必要に応じた他専門職 コミュニケーション量	グループ内での参加状態 やかかわる頻度や深度	①	課題解決の促進 対人関係における社会的調整機能における安全性
6	組織	内外をつなぎ合わせる人	インベシジョンや研究開発関係者 や関係機関	情報、素材、戦略	①	組織内はもとより、内部と外部をつなぐ 専門性とコミュニケーションの高さ
7	医療システム	かかりつけ医 医療機関外部専門職 専門性の異なる医師	より高度な診断治療を必要とする 要支援者の可能性のある人 複数の治療法	受診 治療内容	①	医療システム内での専門の異なる治療者をつなぐ
8	災害	テプリー・フイン・グ・サボータ	グループの出入り	2次被害予防	① & ②	緊急時の対応
9	金融経済学	行政の福祉担当者や保健師、教員など 資産運用アドバイザー	専門的ケアの必要な人 投資情報、企業財務情報など	専門的ケア 損失が起きないようにする	①	物資や住環境などの橋渡し
10	イギリスの住宅法 エスノグラフィ	法的義務のある自治体 つなぐ人	ホームレスやホームレスに近い人 エスノグラフィと対象となる人々	人権擁護 効果的なデータ収集と解釈	②	宿泊施設の提供拒否
11	経済社会学	目利き、発掘	クリエイティブな作品やサービスなど	市場に出す	①	フールド・フック 認められる、売れるなどの見極め

注：① gate-opening 二つなぐ、② gate-closing 二排除・排他

おくことが求められる場合と低めに位置づけた方が望ましい場合、gatekeepingの役割を担っている人からのアプローチになるのか、あるいは対象となる人からのアプローチになるのかなど多様な状態である。

しかし、そのなかで共通する視点として、Table 1 で示したように、(a) 人と人の営みであること、(b) 特定領域の専門家あるいは経験や知識が豊富な人が、非専門家に対し行われる行為、(c) つなぐか否かの判断、(d) 判断に伴う行為が挙げられる。特に(c)のつなぐか否かの判断は「gate」が意味するものにより、gate-opening か gate-closing か、そしてこの2つの間の調整になる。ほとんどが gate-opening で、gate-closing は自死に至らないようにする状態のみで、gate-opening と gate-closing の間の調整という役割を担っていることが明らかになったと思われる。しかし、自殺対策として、自殺報道時に情報提供がなされるようになってきているが、どの領域であっても、適切な判断をするために gatekeeper へのアクセスはしやすい方が望ましいことが示された。

### 心理臨床家養成教育でのgatekeeping

心理臨床家養成におけるgatekeepingは、研修段階に入る前かつ研修段階で専門家としての能力やパーソナリティ、取り組み方や修得状況などの個人内要因の課題から、心理臨床家の専門家集団に入る「gate」を閉じるという意味合いで受け止められやすく、有資格者が資格取得を目指す人に対し行われる心理臨床の専門家集団に入るか否かの視点で考えられやいように思われる。しかし、Ziomek-Daigle & Christensen (2010)が、入学前から研修プロセスでのgatekeepingを改善や成長指導計画を含めた4段階理論を提案しているように、養成に携わる教員やスーパーバイザー（以下、SVorと略す）は、改善や成長への働きかけ（remediation）とgatekeepingの2つが求められ、gateを開ける役割と時にはgateを閉じる両方の役割をもっている

(American Counseling Association, 2014)。学生や初学者にとっては、入りたい「gate」に入れない状態ではなく、「gate」に入るために必要となる知識やスキル、自己理解を含めた内省的研修（Schon 1983 佐藤・秋田訳 2001）を安全で安心感のある環境と関係のなかで行い、要支援者を傷つけることなく、自身の適性をトライアル・アンド・エラー（trial and error）を続けながら考えていく状態である。マニュアルがあっても特定のことをすれば確実に効果的であるという確実性のない中での研修で、不安を高めやすいが、体験を通して感じ、考え、学び続けることといえるだろう。そして、臨床実践に必要な能力やスキル、型などを習得し成長しながら専門職に就くプロセスにおいて、さまざまなポイントにおけるモニタリングも不可欠で、ここでgatekeepingが行われることになる（Brown-Rice & Furr, 2016）。

国内における大学院での公認心理師養成プログラムは、2018年4月から現在までに180（河合塾KALS, 2023）であるが、アメリカのカウンセリングおよび関連教育プログラム認定協議会（Council for Accreditation of Counseling and Related Educational Programs : CACREP）は、1981年から養成プログラムの認定を開始し、7年ごとの更新対象となっている修士課程と博士課程は計929になっている（CACREP, 2023）。学習環境やカリキュラム、大学院初級レベルでの8つの必修領域、実習時間と実習期間、教員や臨床指導者の要件に加え、スーパービジョンと教育におけるgatekeepingなどが細かく規定され、そのなかには学生の留年、再履修、退学、そして改善や再教育計画の立案などを、透明性も持って実施することを各プログラムが求められている（Foster & McAdams, 2009）。

そのなかで、専門職として期待する基準に達していない状態の研修生は、専門的能力に問題がある学生（problems professional competency : PPC）として研究が行われている（Rose &

Persutte-Manning, 2020)。期待される基準に達していない状態や対人援助職として何らかの課題を持つ場合への対応として、アメリカの大学および大学院の教育システムにおけるgatekeepingとして評価基準と評価手続きのもと、学生の状態を多角的に理解し、個別の改善計画の立案と実施、そして結果としての適性の判断プロセスを田所・小川（2018, p.83）は紹介および提案をしている。国内では想定しにくい、養成機関の法的責任として修了生を雇用した側が養成機関である大学および大学院を訴える可能性（Custer, 1994）すら指摘されることもあるが、それ以上に要支援者を傷つけるような不適切な心理的支援が行われるリスクを高めないようにする必要性で、当該学生自身を護る意味合いも含まれ、ある種の防波堤としての役割でgate-closingの側面である。

システムとしても社会文化的にも異なるが、参考として調査結果をみてみよう。CACREPに認定されている養成機関の教員を対象に行った調査（Brown-Rice & Furr, 2016）では、91%の教員がPPCの学生への教育経験があると回答し、臨床スキルや対人関係スキル、学習スキルの不十分さ、感情コントロールの困難さ、心理臨床家としての行動の不適切さなどがみられる状態としている。加えて、教員がPCCと考える学生の割合を8.9%と判断している状態に対し、学生たちはコンピテンシーの課題をもつ同級生たちを21.5%と、とらえているズレがあることが示されている（Gaubatz & Vera, 2006）。これには、接する時間の長さや教員の前では見せない感情的なやりとりが学生間で生じていたり、教員以上に批判的で厳しい視点でみている可能性が考えられている。さらに、学生がPPCの学生と研修を継続することの困難さやストレスフルな状態であっても、罪悪感や羞恥心、時には報復に関する恐怖感のために教員に話せない状態も示されている（Brown-Rice & Furr, 2013 ; Foster & McAdams, 2009）。事例検討会やグループ・スーパービジョンなどは集団で行われ、機能的であ

るためには凝集性の高さが求められるが、PPCの学生の存在はこの凝集性への影響も決して小さくはないだろう。

Henderson & Dufrene（2012）は26の論文の内容分析から、PPCの学生で再履修を求める状態を34抽出し8カテゴリーに分類している：倫理的行動の課題、メンタルヘルス面での症状、個人内特性（対人スキル、柔軟性、葛藤対応など）、臨床スキルの不適切さや不十分さ、フィードバックに対する開放性や受容性の欠如、リフレクション能力、個人的困難さ、手続き遵守の課題（p. 51）。これらに対し、教員は研修生が課題となる状態を最低限の専門的基準を満たすために必要なコンピテンシーを高める機会を提供するための改善計画を立案し、共通理解と同意のうえで実践し（remediation）、もっとも望ましい結果が得られるように対応することが求められている（Schwartz-Mette, 2023）。しかしこれらの必要性に対し、適切なトレーニングも具体的な基準や手続きも明示されず、教員やSVorは必要なトレーニングもなく教育や臨床研修を行っている（Levine et al., 2019）との指摘もみられる。特に、CACREPの2016年の用語集では、gatekeepingは“有能な専門カウンセラーに求められる個人の知識、スキル、専門的資質を監視および評価し、専門的能力に欠けている人がカウンセラーになるのを是正または防止するカウンセラーの教育者およびスーパーバイザーの倫理的責任”（CACREP, 2015, p.45）と定義づけされていたが、2024年基準には用語集から外されている。加えて、国内でも日本公認心理師養成機関連盟（2023）がコンピテンシー・モデルに基づくカリキュラムの提言を行い、学部卒業時から登録後実務経験10年目までのベンチマークも明示されているが、これらを満たさない場合の対応は含まれていない。

国内では、公認心理師法に基づく大学院カリキュラムがスタートした2018年に、養成大学院教員63人を対象としたgatekeepingに関するweb調査研究結果を田所・小川（2023）が報告して

いる。PPCの学生は13.2%とされ、73.0%の教員がgatekeepingが必要と回答しているが、教員が心理専門職あるいは教育者としてのスタンスによってgatekeepingに対する必要性に差異がみられることを考察し、教員にはこれら両面を有して教育に携わる重要性を指摘している。

ここで、Russell et al (2007) が大学教員として直面する remediation と gatekeeping に関する調査研究で用いられた素材をみてみよう。ビネットを提示し、対応を 17 の選択肢から選ぶものである。社会文化的影響もあるため、国内に合う内容に一部修正を行った場面の一部を紹介する。修士課程の大学院生を TIP (trainee-in-psychotherapy) と表記する。

**場面 1:** TIP が担当クライアントとのセッションのメモやファイル、インテークの書類などの情報を日常的に自宅や講義室、車など、センターの外に持ち出していることを、他の TIP から情報提供を受けた。

**場面 2:** 臨床面で期待されている基準以上にすぐれたスキルを有する TIP が、最近外見や言動に変化がみられ、引きこもりがちでイラつき、身の回りのことにも注意が向かなくなっていた。担当クライアントとのセッションは継続しているが、スーパービジョンをキャンセルしたり欠席するようになっていた。連絡をして、心配していることを伝えると、双極症の治療を受けているが最近では内服していないことを話した。

**場面 3:** 担当クライアントとの関係で中断が続いたため、TIP のセッションを観察すると、かわりが少なく、存在感がない状態であった。クライアントにセッションへ参加してもらうことが困難であることを指摘し、新しいかわり方のロールプレイを行った。しかし、その後のセッションでのかわり方は変わらず、クライアントに関心を向けられない状態が続いた。

**場面 4:** 高齢の両親と 10 代の子どもの家族のいる TIP で、担当クライアントから連絡を受け対応しないといけない日に不在であったため SVor が対応した。その折、センターで記録をみ

ると、1 ヶ月間の記録が書かれていないことがわかった。

これらのビネットに対する 17 の選択肢を一部変更したものが、以下になる。

- 1) TIP と課題に関し話し合う
- 2) 他の教員と当該 TIP の課題や状態を話し合う
- 3) 臨床心理学的または精神医学的アセスメントを受ける機関を紹介する
- 4) 個別の心理療法を受ける機関を紹介する
- 5) 休むように伝える
- 6) スーパービジョンの頻度を増やす
- 7) 講義や演習などの聴講を求める (科目名: \_\_\_\_\_)
- 8) TIP と臨床や研究面での指導時間以外のかかわりや交流する時間を増やす
- 9) 同研究室や他の TIP に見守ってくれるように依頼する
- 10) 陪席研修や TIP とペアで臨床研修を行う
- 11) セッションを観察する
- 12) 懸念事項に関し、書面にして渡す
- 13) 改善計画を作成し、書面にして共有する
- 14) 退学を勧告する
- 15) しばらく経過観察を行う
- 16) 進路変更を働きかける
- 17) 資格認定機関の倫理委員会に相談する

教員は教育者であるとともに臨床家でもあり、一緒に学んでいる学生も将来心理職を志望している。教員として課題をかかえる学生への対応でも、研修生として一緒に学ぶ中でも、PPCの学生とのかかわりのなかで、ともにコンパッション疲労を抱えている可能性のあることをRose & Persutte-Manning (2020) が指摘している。PPCの学生へのgatekeepingそして改善成長計画として、スーパービジョンの回数を増やしたり、課題を追加したり個別の対応が求められるが、その分他の学生との時間が短縮されることをはじめとして、PPCの学生だけではなく点への対応も同時に考慮して研修や研究指導を

進めることの必要性である。また、これらの対応はスーパービジョン独自の状態もあるため、TIPsが心理臨床家としての発達および成長へのかかわりも含めたSVorのかかわりに関するメタ・スーパービジョン (meta-supervision) を受ける体制化も求められる (五十嵐, 2017)。

### さいごに

PPCの学生へのかかわりだけでなく、人のところに触れる心理臨床家の専門職養成教育において、gatekeepingは倫理的にも法的にも慎重に行う必要があるが、教員間でも主観的評価ではなく、共通する評価システムの重要性は必要である。しかし、その共通の評価システム作成や実施においては、社会文化的にも養成システムや資格システムも異なり、契約関係や責任の意味合いが明確化されにくい国内で今後どのような発展をするのが課題の1つと思われる。加えて、心理臨床家の養成教育において、排除ではなく、心理臨床家として成長していくことを目的としての対応が、これまで以上に強調されてきているように思われる。その意味においては、gatekeepingという表現がすぐわず、日本語で表現できる研修生の心理臨床家としての適性の判断や課題解決のための成長計画などを立案し、話し合い、実施、そして評価する役割を網羅する概念の必要性が求められているように思われる。そして、当該学生だけでなく、一緒に研修を行っている学生の研修の保障という視点と実施が不可欠であることの必要性であろう。

看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士などの専門職の実習指導者に指導者講習会の受講が求められており、2023年から公認心理師も指導者講習会がスタートした。心理臨床家はわからないことに真摯に向き合い、負の受容力 (negative capacity) が求められる専門性を有している点で、他の対人援助職とは異なる専門性をもっている。これらを含め、TIPsの状態に合わせた臨床指導やスーパービジョンにおいて今回焦点をあてた gatekeeping に関する内容が

含まれるのか、社会文化的そしてシステムでも異なる国内での検討が進むことを期待したい。

### 引用文献

- Alden, S. L. (2015). On the frontline: The 'gatekeeper' in statutory homelessness services. *Housing Studies*, 30, 924 - 941.  
<https://doi.org/10.1080/02673037.2014.991380>
- Allen, S. M., & Hawkins, A., J. (1999). Maternal gatekeeping: Mothers' beliefs and behaviors that inhibit greater father involvement in family work. *Journal of Marriage and the Family*, 61, 199-212. <https://doi.org/10.2307/353894>
- Allen, T. J. (1977). *Managing the flow of technology: Technology transfer and the dissemination of technological information within the R&D organization*. Cambridge, MA: MIT Press
- American Counseling Association (2014). 2014 ACA code of ethics. Retrieved October 1, 2023 from <https://www.counseling.org/resources/aca-code-of-ethics.pdf>
- Antelope Career Consulting (2023). ゲートキーパー Retrieved October 28, 2023 from <https://www.antelope.co.jp/navigation/finance/world/kana2/word4.html>
- Ashley, F. (2019). "Thinking an ethics of gender exploration: Against delaying transition for transgender and gender creative youth": Erratum. *Clinical Child Psychology and Psychiatry*, 24(3), 650.  
<https://doi.org/10.1177/1359104519851667>
- Barone, A. (2023). What is a gatekeeper? Definition in healthcare and example. Investopedia Retrieved October 28, 2023 from <https://www.investopedia.com/ask/answers/08/gatekeeper.asp>
- Brown-Rice, K. A., & Furr, S. (2016). Counselor educators and students with problems of professional competence: A survey and

- discussion. *The Professional Counselor*, 6(2), 134-146. <https://doi.org/10.15241/kbr.6.2.134>
- Council for Accreditation of Counseling and Related Educational Programs (CACREP) (2015). 2016 CACREP Standards Retrieved November 18, 2023 from [https://www.memphis.edu/cepr/pdfs/clinical\\_filedwork/2016\\_standards\\_cacrep.pdf](https://www.memphis.edu/cepr/pdfs/clinical_filedwork/2016_standards_cacrep.pdf)
- Council for Accreditation of Counseling and Related Educational Programs (CACREP) (2023). 2024 CACREP Standards Retrieved November 14, 2023 from <https://www.cacrep.org/for-programs/>
- Custer, G. (1994). Can universities be liable for incompetent grads? *APA Monitor*, 25(11), 7.
- Donohue, G. A., Tichenor, P. J., & Olien, C. N. (1972). Gatekeeping: Mass media systems and information control. In F. G. Kline & P. J. Tichenor (Eds.), *Current perspectives in mass communication research* (pp. 41-70). Beverly Hills, CA: Sage.
- Fischer, R. A., Johnson, M. D., Stertz, A. M., Sherlock, S. N., & Wiese, B. S. (2023). How perceived maternal gatekeeping affects father: An 8-week study. *Journal of Family Psychology*, 37, 232-242. <https://doi.org/10.1037/fam0001053>
- Foster, V. A., & McAdams, C. R. III. (2009). A framework for creating a climate of transparency for professional performance assessment: Fostering student investment in gatekeeping. *Counselor Education and Supervision*, 48, 271-284. <https://doi.org/unco.idm.oclc.org/10.1002/j.1556-6978.2014.00057.x>
- 藤森 和美・藤森 立男 (1995). 北海道南西沖地震の被災者のメンタルヘルス 保健の科学, 37, 689-695.
- Gaubatz, M. D., & Vera, E. M. (2006). Trainee competence in master's-level counseling programs: A comparison of counselor educators' and students' views. *Counselor Education and Supervision*, 46, 32-43. <https://doi.org/unco.idm.oclc.org/10.1002/j.1556-6978.2006.tb00010.x>
- 林 春男 (1996). 心的ダメージのメカニズムとその対応 こころの科学, 65, 27-33.
- Henderson, K. L., & Dufrene, R. L. (2012). Student behaviors associated with remediation: A content analysis. *Counseling Outcome Research and Evaluation*, 3(1), 48-60. <https://doi.org/10.1177%2F2150137812437364>
- 平野 真弓・鈴木 由美 (2021). 大学生の対人関係におけるゲートキーピングの影響——大学生用ゲートキーピング尺度作成の過程について—— 日本教育心理学会第63回総会発表論文, 477.
- 法橋 尚宏・太田 浩子・林 綺婷・和辻 雄仁 (2022). エスノグラフィックリサーチの方法と 研究事例 日本看護研究学会雑誌, 45(2), 159-175. <https://doi.org/10.15065/jjsnr.20220519160>
- 五十嵐 透子 (2017). 心理臨床家の養成課程におけるスーパーバイザーに求められること 心理臨床学研究, 35, 304-314.
- 井上 祐介 (2023). ゲートキーパー 非営用語辞典 Retrieved October 30, 2023 from [https://www.koueki.jp/dic/hieiri\\_228/](https://www.koueki.jp/dic/hieiri_228/)
- 板谷 和彦 (2022). 地域中小企業の創発的取り組みを支援するテクノロジー・ゲートキーパー 研究・イノベーション学会年次学術大会講演要旨集, 37, 117-120. Retrieved November 20, 2023 from <http://hdl.handle.net/10119/18631>
- 神澤 創 (2011). 米国の自殺対策——ハワイ州の実践を中心に—— 帝塚山大学心理福祉学部紀, 7, 43-57. Retrieved November 19, 2023 from <https://tezukayama.repo.nii.ac.jp/record/845/file>

- es/shinrifukushi07\_05\_Kamizawa.pdf
- 金子 楓・濱口 佳和 (2020). 母親のゲートキーピング尺度日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討 教育心理学研究, 68, 339-350. <https://doi.org/10.5926/jjep.68.339>
- 金子 元久 (2001). 高等教育改革と残された課題 大学の研究教育を考える会・草原 克豪・野村 浩康・前田 正史編. 大学の自律と自立 組織・運営・財政 (pp. 31-62) 丸善
- 加藤 道代 (2007). 子育て期の母親における「被援助性」とサポートシステムの変化 (2) 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 55, 243-270. Retrieved November 1, 2023 from <http://hdl.handle.net/10097/35977>
- 加藤 道代・黒澤 泰・神谷 哲司 (2012). 母親の gatekeeping に関する研究動向と課題——夫婦ペアレンティングの理解のために—— 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 61 (1), 109-126. Retrieved October 5, 2023 from <http://hdl.handle.net/10097/55304>
- 河合塾 KALS (2023). 公認心理師対応大学院リスト Retrieved October 5, 2023 from <https://www.kals.jp/clinical-psy/official-psy/1st/>
- 金 鍾成・河原 洗亮 (2018). 生活科の授業デザイン・実施における教師の役割に関する研究：単元「まちたんけん」における教師のゲートキーピングのケース・スタディー 初等教育カリキュラム研究, 6, 41-50 <https://doi.org/10.15027/45478>
- 小高 真美・高井 美智子・立森 久照・太刀川 弘和・眞崎 直子・高橋 あすみ・竹島 正 (2022). 自殺予防ゲートキーパーとして最小限求められる知識やスキルの検討とその評価尺度「自殺予防ゲートキーパー知識・スキル評価尺度 (Suicide Prevention Gatekeeper Knowledge and Skills Assessment Scale (GKS))」の開発 自殺予防と危機介入, 42(1), 35-46. [https://doi.org/10.51098/spcijasp.42.1\\_36](https://doi.org/10.51098/spcijasp.42.1_36)
- 厚生労働省 (2022). 自殺総合対策大綱の概要 Retrieved October 12, 2023 from <https://www.mhlw.go.jp/content/001002255.pdf>
- 厚生労働省 (2023). 紹介受診重点医療機関について Retrieved December 12, 2023 from [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000123022\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000123022_00003.html)
- Lederer, H. (1970). Training in suicidology, *Public Health Reports*, 85(7), 609. <https://doi.org/10.2307/4593919>
- Levine, A., Sung, C., & Strain, A. (2019). Gatekeeping in master's level rehabilitation counseling programs: An Exploratory Study. *Journal of Counselor Preparation and Supervision*, 12(2). Retrieved from <https://digitalcommons.sacredheart.edu/jcps/vol12/iss2/8>
- 松井 豊 (2006). 災害救援者に対する 惨事ストレスマネジメントシステムの あり方に関する調査 平成 16 年鹿～平成 17 年度 科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書 Retrieved October 18, 2023 from <https://tsukuba.repo.ni.ac.jp/recors/2765/files/11.pdf>
- Meissner, D., & Shmatka, N. (2017). “Keep open”: The potential of gatekeepers for the aligning universities to the new Knowledge Triangle. *Technological Forecasting and Social Change*, 123, 191-198. <https://doi.org/10.1016/j.techfore.2016.03.012>
- Mizrachi, N., Shuval, J. T., & Gross, S. (2005). Boundary at work: Alternative medicine in biomedical settings. *Sociology of Health & Illness*, 27(1), 20-43. <https://doi.org/10.1111/j.1467-9566.2005.00430.x>
- 永山 普 (2016). 創造性を促すネットワーキング戦略——音楽産業におけるコミュニティの融合と分裂—— 早稲田大学大学

- 院商学研究科 博士学位申請論文  
Retrieved November 21, 2023 from  
<https://core.ac.uk/download/pdf/144468177.pdf>
- 内閣府大臣官房政府広報室 (2023). あなたもゲートキーパーに！大切な人の悩みに気づく、支える Retrieved November 4, 2023 from <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201402/2.html>
- 中本 和彦 (2014). ゲートキーピング論からみた学校現場における ESD の諸相——ESD 実践の類型化から教科教育に示唆するもの—— 日本教科教育学会誌, 36(4), 121-124.  
[https://doi.org/10.18993/jcrdajp.36.4\\_121](https://doi.org/10.18993/jcrdajp.36.4_121)
- 日本公認心理師養成機関連盟 (2023). 公認心理師養成カリキュラム検討委員会報告書 コンピテンシー・モデルに基づく公認心理師養成カリキュラムの提言 Retrieved November 21, 2023 from  
<https://kouyouren.jp/wp-content/uploads/2023/07/20230701.pdf>
- 岡田 悠佑 (2021). 戦後日本の学校体育の成立過程における「冬季体育」に関する教育実践史研究——1950年代から1960年代にかけての体育教師の「ゲートキーピング」に着目して—— 日本教科教育学会誌, 44(3), 77-89.  
[https://doi.org/10.18993/jcrdajp.44.3\\_77](https://doi.org/10.18993/jcrdajp.44.3_77)
- Puhlman, D. J., & Pasley, K. (2017). The maternal gatekeeping scale: Constructing a measure: Maternal gatekeeping. *Family Relations*, 66, 824-838. <https://doi.org/10.1111/fare.12287>
- Rook, K. S., & Pietromonaco, P. (1987). Close relationships: Ties that heal or ties that bind? In D. Perlman & W. H. Jones (Eds.), *Advances in personal relationships: A research annual*, Vol. 1. (pp. 1-35). London: Jessica Kingsley.
- Rose, J. S., & Persutte-Manning, S. (2020). Students with problems of professional competency and their impact on proficient students in counseling programs. *The Journal of Counselor Preparation and Supervision*, 13(4) article 4. Retrieved November 14, 2023 from <https://repository.wcsu.edu/jcps/vol13/iss4/4>
- Russell, C. S., Dupree, W. J., Beggs, M. A., Peterson, C. M., & Anderson, M. P. (2007). Responding to remediation and gatekeeping challenges in supervision. *Journal of Marital and Family Therapy*, 33, 227-244.  
<https://doi.org/10.1111/j.1752-0606.2007.00018.x>.
- Sano, Y., Richards, L., & Zvonkovic, A. M. (2008). Are mothers really “gatekeepers” of children? Rural mothers’ perceptions of nonresident fathers’ involvement in low-income families. *Journal of Family Issues*, 29, 1701-1723.  
<https://doi.org/10.1177/0192513X08321543>
- 佐々木 悠亮 (2013). メディアのゲートキーピング研究①——現状と課題 マス・コミュニケーション研究, 82, 93-210.  
[https://doi.org/10.24460/mscom.82.0\\_193](https://doi.org/10.24460/mscom.82.0_193)
- 佐藤 郁哉 (2002). フィールドワークの技法 問いを育てる, 仮説をきたえる 新曜社
- 佐藤 郁哉・芳賀 学・山田 真茂留 (2011). 本を生み出す力 新曜社
- Schein, E. H. (1999). *Process consultation revisited: Building the helping relationship*. Boston, MA: Addison-Wesley Publishing Company.  
(シャイン, E. H., 稲葉 元吉・尾川 丈一 訳 (2002). プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと 白桃書房)
- Schon, D. A. (1983). *The reflective practitioner: How professionals think in action*. New York: Basic Books.  
(ドナルド A. ショーン, 佐藤 学・秋田 喜代美訳 (2001). 専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える ゆるみ出版)
- Schwartz-Mette, R. A. (2023). Remediation,

- counseling out, and dismissal. In R. A. Schwartz-Mette, E. A. Hunter, & N. J. Kaslow (Eds.), *Supporting trainees with competence problems: A practical guide for psychology trainers* (pp. 99–123). American Psychological Association  
<https://doi.org/10.1037/0000340-007>
- Shoemaker, P. J., & Vos, T. (2009). *Gatekeeping theory*. New York: Routledge
- 田所 撰寿 (2018). 初学者へのカウンセラー教育に関する研究の展望——日本における実証的研究に向けて—— *カウンセリング研究*, 51(1), 51-62.  
[https://doi.org/10.11544/cou.51.1\\_51](https://doi.org/10.11544/cou.51.1_51)
- 田所 撰寿・小川 裕美子 (2018). 日本におけるゲートキーピング実践の検討——カウンセラー教育者の役割と責任、そして倫理—— *作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部教職実践センター研究紀要*, 6, 81-92. Retrieved December 1, 2022 from <https://sakushin-u.repo.nii.ac.jp/records/1117>
- 田所 撰寿・小川 裕美子 (2023). 日本の心理専門職養成におけるゲートキーピングの現状と課題 *心理臨床学研究*, 41, 379-385.
- 高橋 伸夫・桑嶋 健一・玉田 正樹 (2006). コミュニケーション競争モデルと合理性 *経済学論集*, 72(3), 2-20.
- 田中 優 (1998). 仮設住宅の運営 松井 豊・水田 恵三・西川 正之 (編) *あのととき避難所は——阪神・淡路大震災のリーダーたち* (pp.115-135) プレーン出版
- Thornton, S. J. (2004). *Teaching social studies that matters*, Ney York: Teachers College Press.  
 (渡部 竜也・山田 秀和・田中 伸・堀田 論訳 (2012). *教師のゲートキーピング——主体的な学習者を生む社会科カリキュラムに向けて* 春風社)
- 津村 俊充 (2012). グループプロセスに焦点を  
 あてたファシリテーションを学ぶ研修をデザインする *人間関係研究 (南山大学人間関係研究センター紀要)*, 14, 102-132.
- Verbeek, W., Baici, W., & Lam, J. S. H. (2022). “Mental readiness” and gatekeeping in Trans healthcare. *Canadian Journal of Psychiatry*, 67, 828-830.  
<https://doi.org/10.1177/07067437221102>
- 渡辺 良智 (1983). ゲートキーパーとゲートキーピング *青山学院女子短期大学紀要*, 37, 159-182.
- White, D. M. (1950). The gatekeeper: A case study in the selection of news. *Journalism Quarterly*, 27, 383-391.
- World Health Organization (WHO) (2014). *Preventing suicide: A global imperative*. (独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所自殺予防総合対策センター訳 (2014). *自殺を予防する：世界の優先課題*) Retrieved November 12, 2023 from [https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/131056/9789241564779\\_jpn.pdf?sequence=5](https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/131056/9789241564779_jpn.pdf?sequence=5)
- World Professional Association for Transgender Health (WPATH) (2012). *Standards of care for the health of transsexual, transgender, and gender nonconforming people*. (世界トランスジェンダー・ヘルス専門家協会 (WPATH) 中塚 幹也・東 優子・佐々木 掌子監訳 (トランスセクシュアル, トランスジェンダー, ジェンダーに非同調な人々のためのケア基準 第7版 Retrieved October, 20, 2023 from [https://www.wpath.org/media/cms/Documents/SOC%20v7/SOC%20V7\\_Japanese.pdf](https://www.wpath.org/media/cms/Documents/SOC%20v7/SOC%20V7_Japanese.pdf)
- 保田 直美 (2014). 学校への新しい専門職の配置と教師役割 *教育学研究*, 81, 1-13.  
[https://doi.org/10.11555/kyoiku.81.1\\_1](https://doi.org/10.11555/kyoiku.81.1_1)

Yonemoto, N., Kawashima, Y., Endo, K., & Yamada, M. (2019). Implementation of gatekeeper training programs for suicide prevention in Japan: A systematic review. *International of Journal Mental Health Systems*, 13:2.  
<https://doi.org/10.1186/s13033-018-0258-3>

Ziomek-Daigle, J., & Christensen, T. W. (2010). An

emergent theory of gatekeeping practice in counseling education. *Journal of Counseling & Development*, 88, 407-415.  
<https://doi.org/10.1002/j.1556-6678.2010.tb00040.x>

## **Gatekeeping in psychological therapist training education: Gate-opening and remediation**

Toko IGARASHI

Division of Clinical Psychology, Health Care and Special Support,  
Graduate School of Education, Joetsu University of Education

### **Abstract**

It has been emphasized that one of the roles of faculty staffs and supervisors involved in the training and educational programs for clinical psychologists and licensed psychologists is gatekeeping in other countries. However, the roles of "gatekeeping" and "gatekeeper" are used in diverse areas and not just for the suicide prevention and the training of various human service professional educational programs. This article provides an overview of gatekeeping, uses of the term and research in 11 fields and examines the role of gatekeeping in the training and education of clinical psychologists and licensed psychologists in Japan. The discussion focused on the importance of understanding and responding to gate-opening and trainee-in-psychotherapy dynamics in the training system as well as the meta-supervision, in addition to the development of curriculum and benchmarks based on the proposed competency model.

**Keywords:** gatekeeping, remediation, psychological therapist training education, supervisor, professional problem competency